



宮川ダムの取り組みや情報をお知らせする「宮川ダムNEWS」です。

## 【令和3年度 ダム放流について】

今年度、宮川ダムでは、合計3回のダム放流を行ないました。

	【放流期間】	【降雨原因】	【累計雨量】	【最大放流量】
第1回	8月 9日～ 11日	台風9号	60mm	139m <sup>3</sup> /秒
第2回	8月19日～ 20日	前線	207mm	80m <sup>3</sup> /秒
第3回	9月22日～ 24日	前線	74mm	91m <sup>3</sup> /秒

ダムに流れ込む水量(流入量)の一部をダムに貯め、ダムから放流する水量(放流量)を抑えることにより、下流の増水を緩和させました。

## 【宮川ダム主要設備のリニューアルが完了しました】

### 奥伊勢の水の番人 宮川ダム リニューアル完了

松阪建設事務所  
国土強靱化増強

主要設備の老朽化対策・機能強化(耐震対策、故障抑制対策)を行い、より確実な防災操作を行うことで、宮川ダム下流の水害軽減に努めます。

宮川ダムでは、老朽化した主要設備(クレストゲート等)の機能強化を図るため、平成24年度より改良工事に着手し今年6月に工事が完成しました。今後も引き続き、下流の皆様にご安心いただけた適切なダム管理に努めます。

また、工事の完成に伴い、永らくご不便をおかけしましたダム堤体上の管理用通路の全面通行が可能となりました。

## 【河川環境改善(土砂還元)の取り組みについて】

ダム下流河川の環境改善への取り組みとして、令和3年3月に桧原、岩井に堆積した土砂の一部約4,000m<sup>3</sup>をダム直下に置き土しました。今夏のダム放流により、約100m<sup>3</sup>の土砂が下流へ供給されたと想定されます。令和4年2月までに供給された土砂の状況を把握するとともに、今後、下流河川の環境への影響を検討していきます。



約4,000m<sup>3</sup>を置き土

令和3年3月撮影 置き土状況(大徳院)



約100m<sup>3</sup>の土砂を下流へ還元

令和3年8月撮影  
ダム放流による流出状況